

あとがき

川辺町史編さん業務は、既に昭和四十年代当初に計画があり、その後、五十年になって再びその機運が盛り上がり、加藤文作（故人）・平岡秀市・木下尚年の三氏が、新たにその職務を任命されました。しかしこれも、週一・二日という変則的な勤務のため、十分な編さん業務が行えず、加えて平岡秀市氏の公民館転出、加藤文作氏の病氣辞任など、不測の事態に追い込まれていきました。このため、道家正一氏の入室をはかり、それとともに文化財保護審議会・文化財保護委員会を設置し、両会の各委員並びに、郷土史研究クラブ員の協力によって史料の調査を行い、業務促進の足がかりとしました。この間、編さん業務の一環として、“川辺町の文化財、第一集石造物編・第二集史跡名勝天然記念物編”を発刊し、文化財業務の進行をはかっていきました。

しかしその後、道家正一氏が高齡を理由に辞任され、再び編さん業務の存続が危惧されるに至ったのでした。このため再度委員の整備充足をはかり、木下尚年・大倉法念・垣下博子三氏による、業務の恒久的定着化をはかったのは、昭和五十七年になってからのことでした。以来二年有余、ここによりやく「史料編上巻」を発刊することができたのでした。

このような曲折を経ながら編さん業務は、川辺十一地区の区有文書、約四百点の調査を皮切りに、木下家文書（下川辺）・矢嶋家文書（中川辺）・西村家文書（中川辺）の約八千点を中心に、寺社文書六百点、その他個人文書など、あわせて一万二千点に及ぶ文書の調査解説を行ったのでした。

これら文書によって、納古山・権現山両山論の新事実が明るみに出、また旗本大嶋氏の全ぼうを知ることができました。一方では、一般庶民の生活に結びつく諸史料が数多く発見され、その一つ一つにも祖先の生活態様や物の考え

方が伝わってきて、いかにして歲月を送ったかが順次解明されていったのでした。

史料編とは、私ども祖先が残した生活記録を集大成したものであり、その一点一点から当時の人びとが、一日一日をどのように過ごしたかを知る上で、重要な史料となるものであります。そのため、ややもすると散逸の恐れのあるこれら古文書を記録し、その意義や価値を明らかにして後世に伝えることは、私どもの責務でもあると考えます。しかし現実には、史料編は極めて難解であり、決して親しみやすいものではありません。そのため、各項目に渡って総解説を付してその大要を説明し、また史料一点ごとにミニ解説ともいうべき概要を記載して、できるだけ親しみやすくするように心掛けました。

この上巻を踏まえて、引き続き史料編下巻・通史編を発刊する予定ですが、本書刊行にあたり、各地区町民の方々から、数多くの史料提供がありましたことを、改めて感謝いたします。また史料収集・解説・編集に際し、神奈川大学・岐阜大学・岐阜県歴史資料館・岐阜県立図書館のご指導にあずかり、次の方々にもご指導、ご助言あるいは史料のご紹介を賜りました。厚く御礼申しあげます。さらに本書印刷にあたり、献身的な奉仕をされました共同印刷株式会社に対しても、深く謝意を表します。

吉岡勲 船戸政一 神保朔郎 角竹弘 可児一郎 丹羽平一 増田五郎

西山喜洋の諸先生

昭和五十九年十二月

町史編さん室 木下尚年

町史編さん協力委員

文化財保護審議会委員

田原耕作 井内日進 山田里見 佐伯泉 伊藤克文

文化財保護委員会委員

木下滯 奥村正 岡本穰 井戸金之丞 矢嶋弓男 紅谷茂 加藤栄樹 篠田日一 長島正彦 白村正市
石井務 村上正 小森静樹 山田光雄 高井嘉治 肥田満郎 林真一 赤坂孝平 佐藤恭一 佐伯馨三

川辺郷土史研究クラブ会員

井戸喜一 (文化財保護審議会委員)

若井令一 (文化財保護委員会委員)

加藤 護 (同)

加藤時夫 高橋美智夫 井戸義勝 若井国光 井戸喜男 岩島修三 安田昭

町史編さん室

室長 木下尚年 (文化財保護審議会委員)

大倉法念 (文化財保護委員会委員)

垣下博子